

実施報告書

会議名称：International Conference on Economic Theory and Policy

開催日程：2017年9月15-17日

開催場所：明治大学駿河台校舎リバティタワー15階及び16階

実施内容

2017年9月15-17日に、国際会議 International Conference on Economic Theory and Policy を明治大学駿河台校舎リバティタワーで開催した。この会議は、2010年9月以降毎年継続している国際会議であり、今回も基調講演7、一般報告22の会議となった。この会議に合わせて、D.リカード『経済学及び課税の原理』の出版200周年のためのリカード研究会主催のセッションの報告4もあり、非常に有意義な会議となった。

基調講演は

- 1) Technical Progress and the Diffusion of Innovations: Classical and Schumpeterian
[Hein D. Kurz \(University of Graz\)](#)
- 2) Keynes's *Two Memoirs*
[Ted Winslow \(Department of Social Science, York University\)](#)
- 3) The Post Keynesian Macroeconomic Policy
[Fernando Ferrari Filho \(Universidade Federal do Rio Grande do Sul\)](#)
- 4) What does the growing communality of contemporary capitalisms mean for economic theory?
[Robert Boyer \(Institut des Ameriques\)](#)
- 5) Malthus and Ricardo on International Trade and Structural Change:
A modern interpretation
[Neri Salvadori \(University of Pisa\)](#)
- 6) Keynes, International Credit Money and Exchange Rate Effectiveness
[Jan Toporowski \(SOAS, University of London\)](#)
- 7) Sraffa and Marx
[Heinz D.Kurz \(University of Graz\)](#)

であり、国際的にも著名な研究者による重要な講演が行われた。一般報告は、経済理論、経済政策、金融、経済学史、実証研究、など幅広いテーマの報告が集まった。特に、この会議の特徴として、ケインジアン、ポスト・ケインジアンの経済理論や金融・国際金融・金融システム、産業連関分析などのテーマの報告が多く集まった。会議の詳細は

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~confyagi/September2017.html>

で確認できる。

今回の国際会議には、本学政治経済学部の勝悦子教授、千田亮吉教授、八木尚志教授、柴田有祐専任講師、縄倉晶雄助教が参加または報告を行った。明治大学の大学院生や学部生も、多数参加し、明治大学の研究活動が国際的にも若い世代にも広がる貴重な機会となった。

(報告者：政治経済学部 長峰章)